

# 花巻市の学びと暮らしを紡ぐ「まちのプラットフォーム」

花巻市には、かつての羅須地人協会のように、誰もが自由に参加できる学びと実践の場が豊かな文化を育んできた歴史があります。現在も、「リノベーションまちづくり」によるそれぞれの生業を起点にした面的なまちづくり、「まきまき花巻」での市民ライターによる発信など、生き生きとした個々の市民活動が、まちの個性豊かな文化をつくるポテンシャルがあります。そこで私たちは新しい図書館を、誰もが参加できる文化的な空間「まちのプラットフォーム」と位置づけ、知の蓄積を活かしながら、まちの情報や活動をつないでいく場として提案します。



## ①花巻市の生きた情報を共有する「はなまきシェルフ」

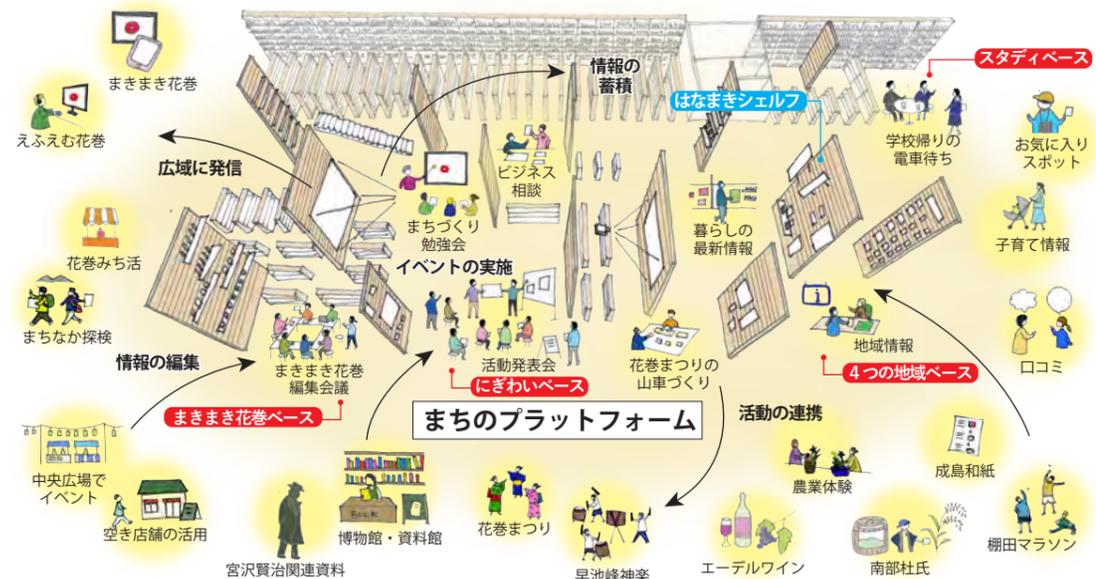
市民とともに作り続ける「はなまきシェルフ」には、将来蓄積していく図書とともに、市民のおすすめ本や活動の成果等、施設内外の多様な情報が集まり、生きた情報との出会いの場をつくります。

## ②市民の多様な過ごし方の拠り所となる「〇〇ベース」

「はなまきシェルフ」のまわりには多環境の居場所「〇〇ベース」をつくります。一人でゆっくり過ごしたりみんなで集まって活動したり、本を読んだり調べ物をしたり、多様な過ごし方を支えます。

## ③まちとつながりながら、変化し続ける場として

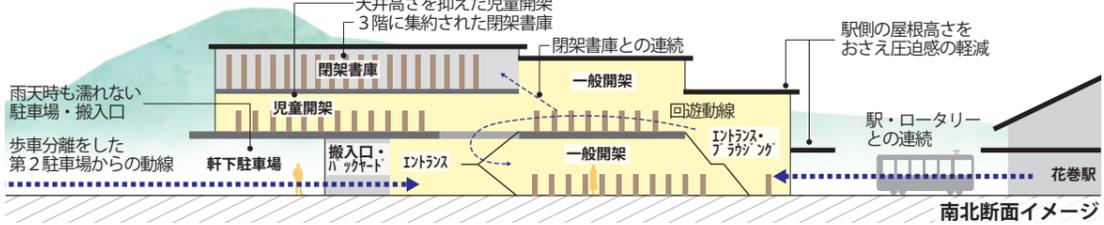
まちのプラットフォームとして、まち全体を巻き込みながら情報や活動が繋がり、まちの文化が育ち続ける起点となることを目指します。設計時から「はなまきシェルフ」づくりをきっかけに参加のプロセスをスタートさせ、市民が関わりながら変化し続ける流れをつくります。



## ア) 図書館としての性能

### 駅や広場とつながる開かれた場づくり

1階は駅や広場に開いた設えとし、利用者を迎え入れます。駅側と第2駐車場側の2箇所にメインエントランスを設け、アクセスしやすい計画とし、階段と吹抜けによって立体的に回遊することができ、様々な活動や情報との出会いが生まれる計画とします。第2駐車場側は軒のあるピロティ形状とし、雨天時の車椅子利用や搬入動線にも配慮した計画とします。

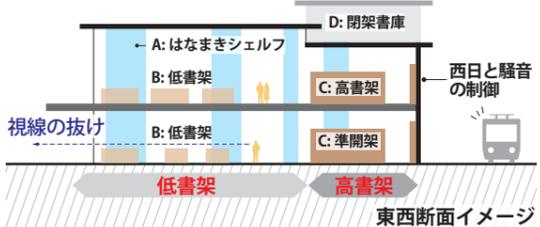


### 周辺環境への配慮と変化のある場づくり

広場側に対しては、視線の抜けをつくり、電車の騒音や西日が厳しい線路側は、壁や高書架で守ります。また、1-2階の階高に抑揚を持たせ、変化のある空間をつくります。

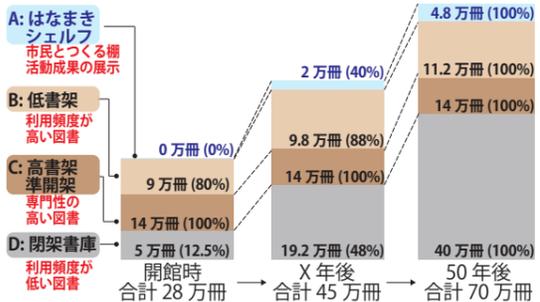
### 役割に応じた4段階の書架設定

(A) はなまきシェルフは、市民と共につくる本棚や活動成果の展示など、ライブな情報を伝えます。(B) 一般図書を中心とした中置書架は低書架として視線の抜けを確保します。(C) 線路側には高書架の準開架を配置し、専門性の高い図書を配置します。(D) 利用頻度の低い図書を収蔵する閉架は3階に集約します。



### 文化の蓄積を可視化する蔵書計画

開館時 28万冊程度から将来 70万冊に至る過程では、(B) 低書架 (C) 高書架には、ベースとなる NDC 分類の図書を配置し、利用頻度が低くなった本を順次、(D) 閉架に移動します。(A) はなまきシェルフは、開館時は何も無い状態からスタートして常に自由度の高い状態とすることで、活動や情報が徐々に蓄積されていくものとします。

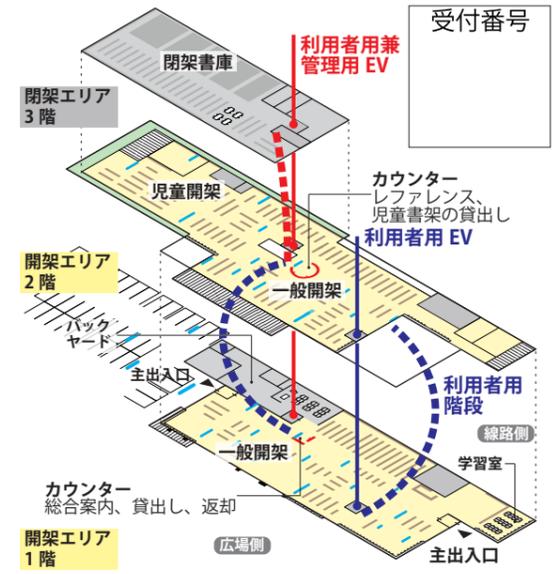


### 使いやすく、運営しやすいフロア構成

気軽に入りやすい1-2階を利用者エリアとし、閉架書庫等を3階に集約することで、利用者にとってわかりやすく、また、少ない人員でも運営しやすい計画とします。

### 縦のつながりの良い効率的な管理動線

カウンター・バックヤード・閉架は、コンパクトな縦動線によってつなぎ、見通しがよく効率良い運営を可能とします。

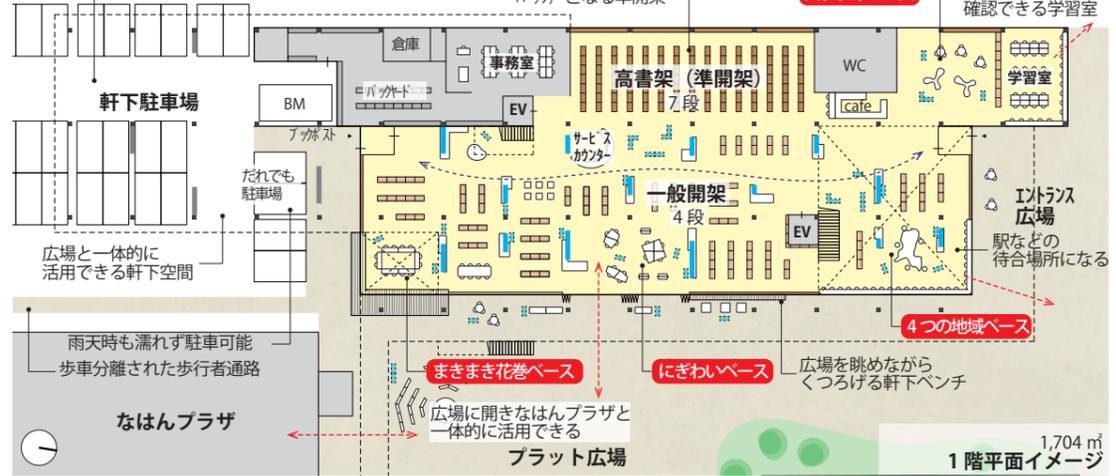


階	はなまきシェルフ			
	A	B	C	D
3階				40万冊
2階	2.85万冊	6.7万冊	7万冊	
1階	1.95万冊	4.5万冊	7万冊	
合計	4.8万冊	11.2万冊	14万冊	40万冊

3階平面イメージ 897㎡



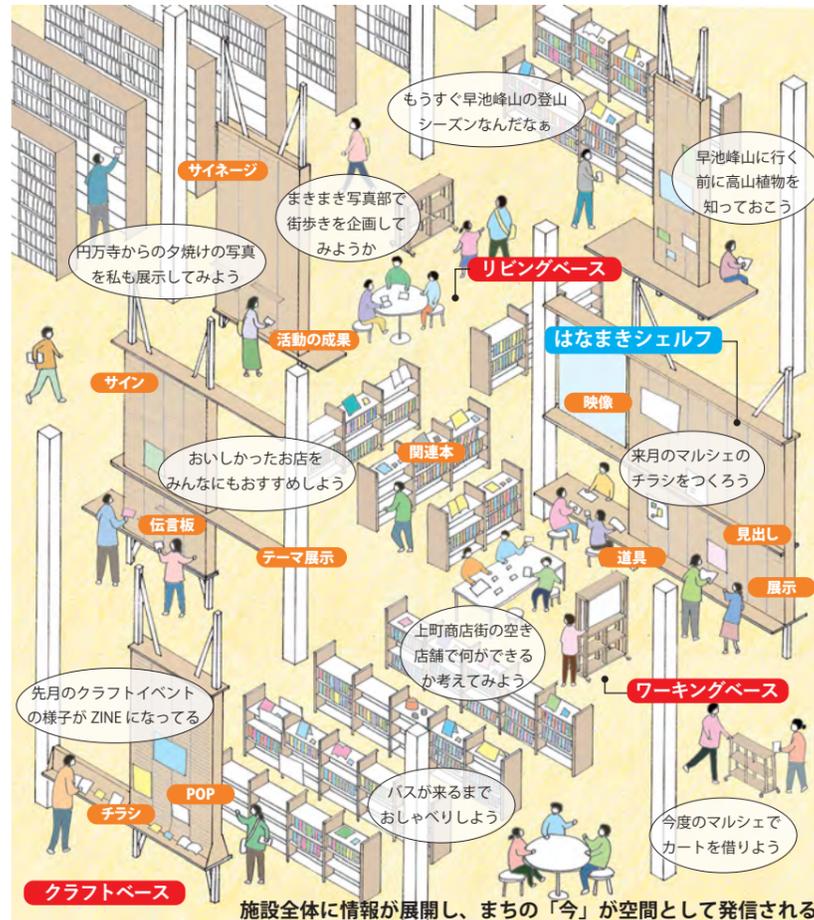
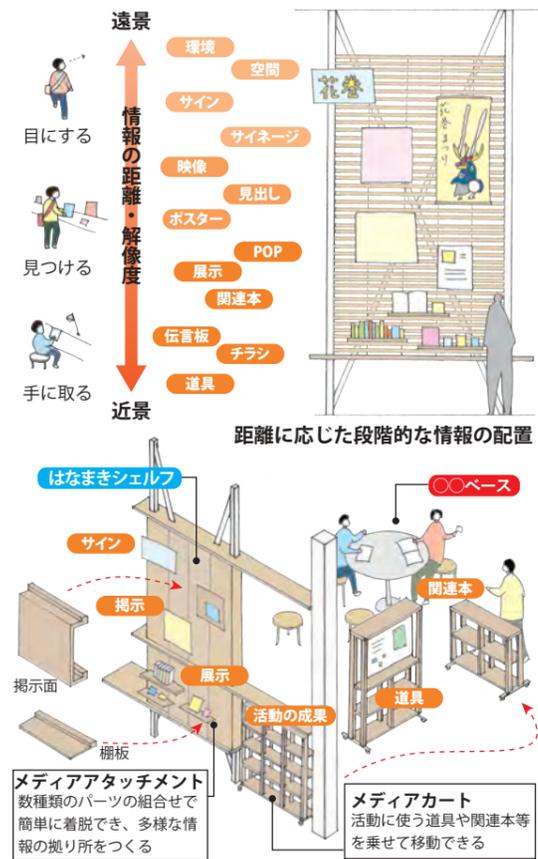
2階平面イメージ 1,895㎡



1階平面イメージ 1,704㎡

市民とともに作り、育て続ける情報空間

市民とともに情報をつくり発信する棚「はなまきシェルフ」には、高さ方向を活用して、人との距離に応じた情報を配置します。はなまきシェルフには容易に着脱できるメディアアタッチメントによって図書や展示や活動の成果等が取付きます。また、活動の記録や道具を乗せて移動するメディアカートは、「〇〇ベース」での活動をサポートします。メディアカートは、まちに持ち出して、施設外に情報発信や活動の場を拡張することも可能です。



受付番号



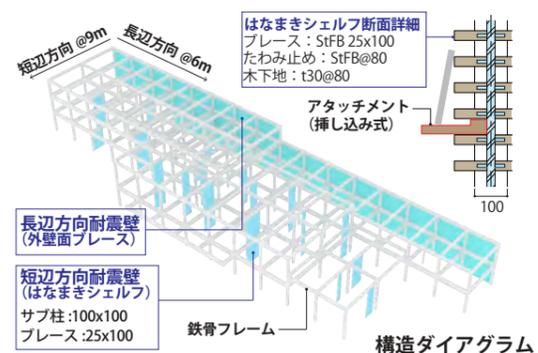
イ) 公共建築としての持続可能性

効果的な開口部の設定と高断熱化

周辺の環境特性を考慮した上で、効果的な開口部を設定した立面により開口率を20%以下に抑制します。また、外皮の高断熱化を徹底することで環境負荷を低減します。

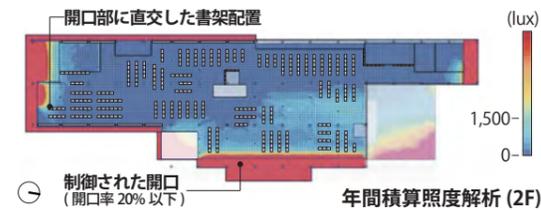
合理性と柔軟性の高い鉄骨造の採用

構造はシンプルな鉄骨耐震壁付ラーメンとします。長辺方向の耐震壁は西側外壁面とし、短辺方向の耐震壁は、はなまきシェルフ部分によって確保します。シェルフの耐震壁は地域産木材で挟んで構成し、スパンの間に適宜配置可能な柔軟性の高い計画とします。



直射光の制御と図書の日焼け防止の検証

庇の設置や開口のサイズ制御、開口と書架配置の関係等によって図書への直射光を防止します。環境シミュレーションによって、図書への年間累積平均照度が1500lux以下になるようにすることで本の日焼けを防止します。

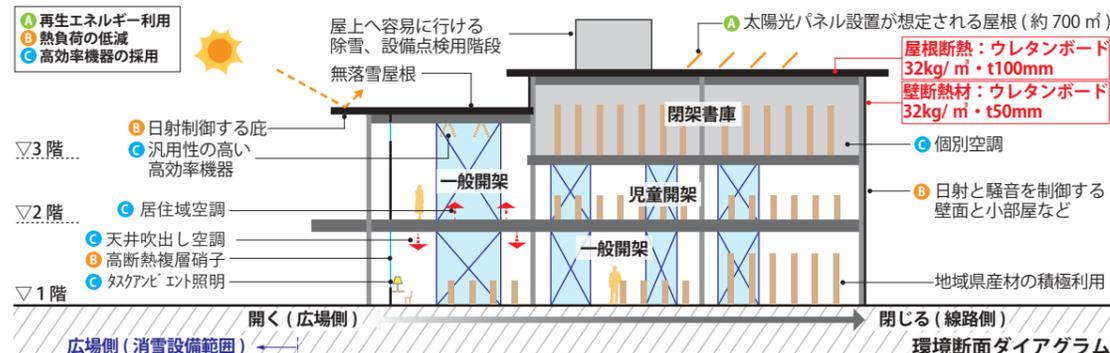


高効率な設備と再エネ活用の検討

高い外皮性能により、空調効率の高い省エネな建築を実現します。CH=3.5mの1Fは天井からの空調、CH=6.0mの2Fは床空調として適材適所の計画とします。また、太陽光パネルを設置可能な緩勾配屋根とし、省エネ基準に併せて再エネ活用も検討します。

木材活用による持続的循環

はなまきシェルフ・〇〇ベースを中心とした家具や内装仕上材には、地域産木材を積極的に採用し、地域資源と経済の持続的な循環を生み出します。



ウ) 敷地の活用

伸びやかに市民を迎える低層の建物

駅舎と連続し水平に広がる低層の屋根や、ボリュームの分節によって、圧迫感のない伸びやかな風景をつくります。駅側は、建物をセットバックし、利用者を迎え入れます。

広場を囲むみんなの居場所をつくる

広場を囲むように庇を架け、屋根下駐車場まで一体的な利用を可能とします。広場周囲に植栽を施し緑視率をあげながら、纏まったイベントスペースを確保します。

